

クラウド利用の悩みを、 国産クラウドで解決！

—高セキュリティな閉域網、分散拠点による低遅延環境のご提供—



こんなお悩みはありませんか？

- ✓ VMwareを使い続けたいが、費用高騰で予算が見合わなくなってきた
- ✓ データ転送コストが予想以上に膨らむ
- ✓ データ移行の初期費用が読めず、稟議が通しづらい
- ✓ 海外クラウドは為替や法令対応に不安がある

その悩みInfinityOne（OCF）が解決します

VMwareライセンス刷新のインパクト



サブスクリプションへの強制移行

Broadcomによる買収後、従来の永続ライセンスが廃止。

全てのユーザーがサブスクリプションモデルへの切り替えを迫られています。



実質的なコスト増加のリスク

ポートフォリオの統合により、不要な機能を含む高額パッケージの購入が必要になるケースが多発。

IT予算を圧迫する要因となっています。

解決策：国産OCF採用クラウドの導入

InfinityOne(OCF)とは？OCXについて

OCXは、国内最大級の分散拠点ネットワークサービスです。各地域のデータセンターにクラウド基盤を分散配置することで、通信遅延の低減と高い可用性を実現します。
インターネットを介さない「閉域」網により、物理的に最短のルートで通信を行います。
今お使いのVMWareの仮想環境について、InfinityOne（OCF）のサービスを利用することにより、高セキュリティ、低遅延な環境を提供することが可能です。



Secure

インターネットの脅威から完全に隔離された閉域ネットワーク。金融・公共機関も安心して利用可能です。



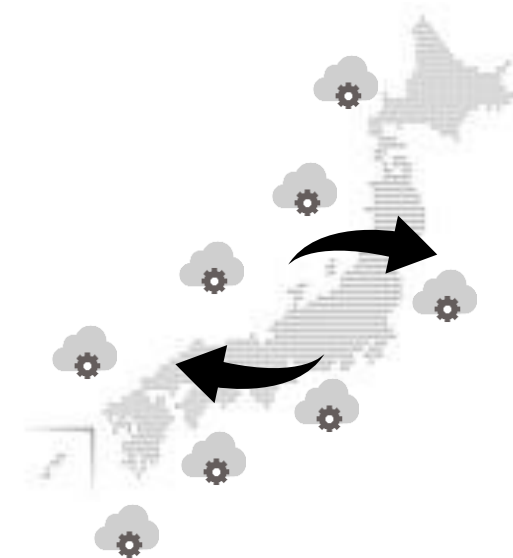
Rapid

SDN技術により、ポータルから数分で回線を開設。10Gbpsまで柔軟にスケールアップできます。



Distributed

各地に分散されたエッジ接続点により、トラフィックの集中を回避し、システムの可用性を最大化します。



- ✓ 閉域性: 高セキュリティな専用プライベート網
- ✓ 高速性: 10Gbps対応の高性能ファブリック
- ✓ 分散性: 全国40拠点以上の主要DCを網羅

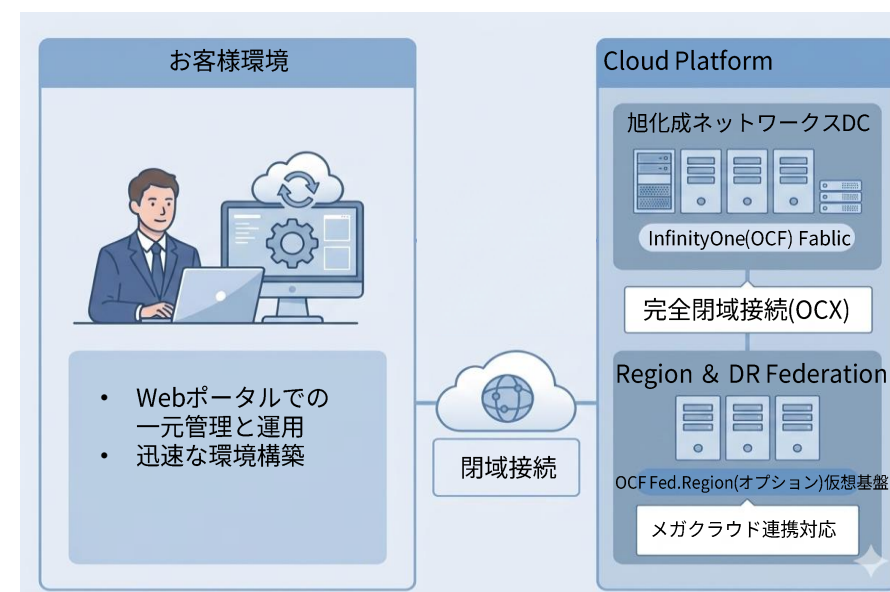
InfinityOne(OCF)とは？ コスト

- ✓ InfinityOne (OCF)とは、旭化成ネットワークスが提供する国産の次世代クラウド基盤です。VMwareベースの基盤となるOCFを採用している為、安心して既存環境から移行を行う事が可能です。
- ✓ データ転送料は不要です。専用ポータルにより、柔軟かつ迅速な環境構築を実現し、お客様のビジネスを力強く支援します。

サービス提供イメージ

コストも安心感も、どちらも譲らない。国産の次世代インフラ戦略。

- **データ転送無料**で、予算が立てやすい
- OCX網によるメガクラウドとの連携
- 国内クラウド基盤で法規制・為替リスクに強い
- データ移行サポートや相談体制も充実



OCF (OCX Compute Fabric)は、IDCフロンティアとBBIXが共同で提供する地域分散型のクラウドサービス (IaaS) です。

InfinityOne（OCF）とメガクラウドのサービス比較

クラウド運用で課題となりやすいコスト管理やデータ保管の不安に対し、主要サービスを「コスト」「機能」「リージョン」の観点で比較。特に、コストの安定性と国内データ管理のしやすさは、長期的な運用において重要な判断軸となります。

	 01 セキュリティと低遅延	 02 機能	 03 リージョン
InfinityOne (OCF)	✓ 金融や公共機関も安心して利用可能な閉域ネットワーク ✓ 分散されたエッジ接続点により低遅延な環境を提供	✓ 他のクラウドサービスとのデータ連携も可能	✓ 国内リージョンのためデータの保管場所が明確 ✓ 海外の法令や規則に縛られず運用可能
メガクラウド	✓ インターネット前提 ✓ リージョン依存・距離影響あり	✓ 幅広いサービスを利用可能 ✓ 各種クラウドとの連携実績も豊富	✓ 世界各国・日本国内にもリージョンを複数持つ

不安定な電力はデータ損失やサービス中断を引き起こすリスクも

電源不安は、サーバー停止によるデータ消失やサービス中断のリスクを高めます。特に災害や広域停電時は、電力供給の安定性が事業継続の可否に直結します。そのためBCPに強いセンター選定では、平常時はもちろん非常時を想定し、電源の確保状況や冗長性の水準を事前に確認することが不可欠です。

01



計画停電でも困らない 多様な電力供給源

災害や需給逼迫時の計画停電は、IT基盤に大きな影響を及ぼします。複数の電力供給源を持つデータセンターなら、商用電力に依存せず、停電時でも安定した運用を継続できます。

02



受電経路の冗長化

電力の安定供給には受電経路の設計も重要です。受電ルートを複数確保し、障害時に別経路から供給できる構成であれば、単一障害点を排除し停電リスクを大幅に低減できます。

03



非常用発電設備

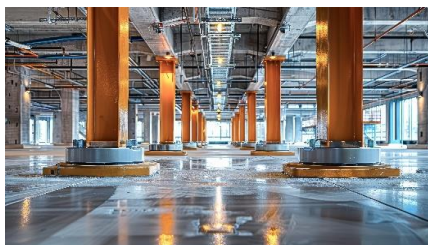
商用電力が全停止しても、非常用発電設備があれば稼働を継続できます。発電容量や稼働時間に加え、燃料確保の体制まで確認することで、長時間停電にも耐えうる電源環境かを判断できます。

旭化成ネットワークスなら

旭化成グループが保有する発電所と商用電力の併用で安定した電源を確保
2系統受電とN+1構成の無停電電源装置を備えた電源設計により、非常時でも安定した電力供給

独自ノウハウのもと教育された**正社員とベンダー常駐**による万全の運用体制

データセンターでは、独自の運用・監視ノウハウを基に質の高い教育を受けた正社員のオペレーターが運用を担当し、24時間365日の監視を行っています。また各ベンダーがデータセンター敷地内に常駐し、お客様のハードウェアが故障した場合、即座に対応しています。このような状況においても迅速に対応できる体制を備えており、お客様がデータセンターへ駆け付ける必要のない障害復旧を可能とするサービスをご提供しています。



建物の堅牢性

首都圏を中心にデータセンターの建設が相次ぐ一方、用地取得や建設コストの高騰により、都市型DCのラック利用料は上昇傾向にあります。特に高密度化や電力要件の高度化に伴い、必要以上のコストを負担せざるを得ないケースも少なくありません。BCP用途やDR拠点として運用していく際に、こうしたコスト構造が課題となる場合があります。



セキュリティ

入退室管理や監視カメラによる物理セキュリティに加え、運用ルールや監視体制の整備も重要です。特に機密情報を預ける環境では、不正を防ぐ仕組みが欠かせません。こうした多層的な対策を確認することが、安心して利用できるデータセンターの選定につながります。

✓ 建物の堅牢性チェックリスト

- 建物が免震構造であるか
- 高所に建物があるか
- 止水板があるか
- 延焼防止対策が施されているか
- 落雷からサーバーを守る設備が整っているか

✓ セキュリティの堅牢性チェックリスト

- 生体認証による入退室管理、監視、ログ管理など物理セキュリティ要件が明確か
- 建物外周を含め、不正侵入防止措置が講じられているか
- 設備点検・保守の運用体制が明文化されているか

旭化成ネットワークスなら

災害を想定した堅牢な建物設計と、厳格な入退室管理・監視体制を整備
物理・運用両面のセキュリティを重視し、BCP対策に求められる高い堅牢性を実現

AsahiKASEI

旭化成ネットワークス

お気軽にお問い合わせください



<https://www.aknws.com/service/housing/>



contact@dc.asahi-kasei.co.jp

ハウジングサービス 初期費用無料キャンペーンのご紹介



BCPに最適な
ハウジングサービス導入

**初期費用
ゼロ!**

※標準サービス外のご利用の際は
別途初期費用が発生します

今ならラック利用料

**12ヶ月分
無料!**

初年度コスト **78%削減** を実現

キャンペーンのお問い合わせ ➤